

第5回上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会 会議録

【日 時】令和2年1月28日（火）9：30～12：00

【出席者】委員 9名
担当課
（こども支援課） 4名

【欠席者】委員 5名

【傍聴人】 1名

【事務局】 6名

1. 開会

- ・配付資料確認
- ・委員長あいさつ

2. 議題

（1）上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について

【子育て支援セミナーの開催】

担当課：＜子育て支援セミナーの開催について説明＞

牧浦委員：達成度のところ、ファイナンシャル相談員がいないと実施できないのか。

担当課：ファイナンシャル相談員に限定しているわけではない。

牧浦委員：ファイナンシャル相談員以外での実施についても考えているのか。

担当者：保健師や看護師を講師として実施することも考えている。

安中委員：このセミナーは何回の開催を予定していたか。

担当課：1回の予定だった。

安中委員：1年間で1回の予定で開催できなかったということで、今の若いお母さん達は孤立化していることも多いので、今回の反省も含めて、1つの内容がダメだったら、2つ3つと色々な内容を考えておいて、実施できるように進めていってほしい。

委員長：今年度は実施しているのか。

担当課：31年度は実施してる。

委員長：それはファイナンシャル相談員が来たのか、それとも生き生き対策課とかそういったところと連携して実施したのか。

担当課：保健師と理学療法士の方に来ていただいて開催した。

委員長：今年度実施しているなら、事業見直しの余地の部分で、見直し余地があるが時間が必要というよりも、実際見直して実施しているので、評価はAとなって、今後の方向性のところも、見直しして継続にしてもいいように思う。

担当課 : 評価シートを作成した時点では、実施が決まっていなかったのですが、この評価のままの方がよいのではないかと内部では協議した。

委員長 : また検討しておいてほしい。

西山委員 : 子育て世代包括支援センターとの役割の違いや、どういう風に連携してセミナーを実施してくのかについて教えてほしい。

担当課 : 子育て世代包括支援センターは母子保健型で、妊娠からその都度関わりを持って支援していくことになると思うが、こども支援課としては、直接的ではなくても関わりを持って色々な情報を提供することができると思うので、そこに関わっていない方がセミナーに来てもらえるように開催していきたいと考えている。

西山委員 : 子育て支援セミナーの内容について教えてほしい。

担当課 : 平成 31 年度に実施した内容は言葉の力ということで、手遊びや紙芝居、曖昧な言葉ゲームなどを実施した。今後は防災の内容も検討している。行事で集まっているところでセミナーを開催して参加者を募るような形で考えている。

梶野委員 : イベント会場で参加者を募る場合、どういう方法をとっているか、また、実際に実施して参加人数はどのくらいだったのか、子育て世代包括支援センターで行う内容との役割分担はどうなっているのか、教えてほしい。

担当課 : 広報や窓口で周知している。31 年度は約 40 名ぐらいの方に参加していただいた。今後は Facebook 等を活用して、若いお父さんお母さん達に対して周知できるように考えていきたい。

委員長 : 子育て世代包括支援センターとの役割分担をどうしていくか、同じようなものを実施しても仕方がないので、委員さんからご指摘あったように検討いただきたい。

担当課 : 子育て世代包括支援センターではアンケート等で直接お母さん方のニーズを把握できると思うので、そのデータに基づいて、センターと連携を図りながらどのようなセミナーが求められているのか検討しながら実施していく。

【乳幼児教育の充実】

担当課 : <乳幼児教育の充実について説明>

牧浦委員 : これは第一保育所でしか実施していないのか。また、30 年度の事業費が減となっている理由の説明をお願いしたい。あと、外国人英語教師は小学校にも来ている同じネイティブの先生なのか。

担当課 : 第一保育所の分を計上している。英語講師は幼稚園と同じ講師に来ていただいている。30 年度の事業費が減となっている理由については、手元に資料がないため、回答できない。

事務局 : 補足説明として、幼稚園でも同じように英語教育と運動教室を実施している。

安中委員 : 日本語教育の取組みについてはどう考えているか。

担当課 : 昨年アンケート調査を実施した結果、日本語教育への要望が多かった。日本語教育についても今後検討してく予定をしてる。

副委員長 : 意向確認書の KPI で、200 人が 210 人、220 人というふうに延べ人数が増えて
いるが、予算は同じで、人数が増えるのはどういう意味か説明してほしい。

担当課 : 現在は 5 歳児を対象としているが、今後 3 歳~5 歳児に対象を拡大することを
考えている。

副委員長 : 講師は 1 人のままで、対象とする児童が増えるイメージでよいのか。

担当課 : 今後 3 歳児と 4 歳児のクラスも交互に行っていきたい。

西山委員 : KPI の人数の内訳を教えてください。どういう想定で 10 人ずつ増なのか。

担当課 : 平成 30 年度は 5 歳児は 11 名。基準値は 12 人掛ける英語と和太鼓の回数で算
出している。また、KPI については、延べ人数がよいのか、回数がよいのかも
う一度検討したい。

委員長 : 内容を整理し、検討いただきたい。KPI については、根拠が明確になるように
設定をお願いしたい。

【ファミリー・サポートセンターの実施】

担当課 : <ファミリー・サポートセンターの実施について説明>

西山委員 : 現状実施の目途が立っていないので、削除だと思うが、評価シートを見るとニ
ーズが増加傾向になっているので、ファミリー・サポートセンターの実施がで
きないのであれば、この住民ニーズについて、どう対応していくのか教えてほ
しい。

担当課 : 社会福祉協議会で実施している事業で託児グループひまわりというものがあり、その事業と連携をとっていく形での対応を考えてる。居宅でのサポートは
できないが、ファミリー・サポートセンターの内容とほとんど変わらない。フ
ァミリー・サポートセンターについては、協力してくれる会員を集めることが
難しいのが現状で削除という形にしている。

安中委員 : 託児グループひまわりはボランティアの方だと思うが、無償で実施しているの
か。

担当課 : ボランティア（無償）でしていただいている。

安中委員 : ボランティアで子どもの面倒を見るのは難しいと思っている。サポートセンタ
ーというのはとても大切な役割だと思う。保育所等に入れなかった人がこちら
に来るのか。

担当課 : 保育所等に入れなかった人ではなく、病院へ行くためとか、家の都合で一時的
に預けるような形の利用である。

安中委員 : 利用料はいくらなのか。

担当課 : 町内は 1 時間あたり 700 円、町外はまた別の料金で設定している。

安中委員 : ボランティアの報酬はないのか。

- 担当課 : つどいの広場で委託して来てもらっている方と同じ方が託児グループひまわりを実施している。
- 安中委員 : サポートセンターの実施が難しい理由は、利用者がいないのか、サポーターがいないのかどっちか。
- 担当課 : 利用者についても減っており、令和元年度は 17 名の方が利用されている。サポーターは 20 名以上ないとサポートセンターの設置ができないので、サポーターの数が足りていない状況。
- 副委員長 : 20 名というのは何か決まりがあるのか。
- 担当課 : ファミリーサポートセンターの設置には 20 名以上のサポーターが必要という規定がある。サポーターの確保が難しいので、補助対象にはならないが同内容で実施している「ひまわり」を利用してもらっている。
- 副委員長 : ファミリーサポートセンターの設置が補助対象になるというのは、どのような経費が対象になるのか。
- 担当課 : ファミリーサポートセンターの設置に係る人件費や事務費、ボランティアの方の賃金が対象となる。基準額の範囲内で国、県からそれぞれ事業費の 3 分の 1 の補助金がもらえる。
- 副委員長 : 補助を受けて実施できるのであれば、サポーターの確保をどうしていくのかを考えてほしい。
- 担当課 : 補足として、ファミリーサポートセンターについては 20 人必要という条件以外に、サポーターの方が自宅で実施しなければならないので、この部分がネックになっている。家で預かるとなると、子どものケガや物を壊したときの取り扱いについても大きな課題となっている。
- 副委員長 : 類似団体での実施はあるのか。
- 担当課 : 実施は奈良市のみだと認識している。
- 委員長 : 削除しても、政策上は問題ないのか。現在パブリックコメントを実施している子ども・子育て支援事業計画には掲載されているようだが。
- 担当課 : 子ども・子育て支援計画の中でも検討し、削除するかどうか判断していく。
- 委員長 : 現実的にファミリーサポートセンターの実施については難しいということで削除になりそうだが、ニーズは大きいので、社会福祉協議会の事業とどう連携して充実させていくのかを具体的に記載してもらえば、削除するということについて比較的納得しやすいように思う。

【放課後児童クラブの充実】

- 担当課 : <放課後児童クラブの充実について説明>
- 副委員長 : 達成度のところで、年度の実績として 135 名や 158 名とあるが、各学童保育所で人数のばらつきはあるのか。
- 担当課 : だいたい同じで、第二小学校の人数が少し多くなっている。

副委員長：各学童保育所の定員はあるのか。

担当課：30年度の2月末の人数になるが、上牧小学校が34人、第二小学校が40人、第三小学校が40人で、長期休業中は人数がかなり増える。

副委員長：最大で150名ぐらいになるということで、現在定員に余裕があるということでよいか。定員に達していないというのは、6時までの預かりで、時間的な問題が大きいということか。

担当課：6時では預かりの時間が短いため、私営の元気クラブに行っている方もいるのが現状。

副委員長：私営の方は割高なのか。料金の問題はあるのか。

担当課：私営は入会金が1万円で、保育料は1年生で6時までが1万2,500円、2年生から6年生が1万500円になっている。上牧町は6時までで4000円になっている。

副委員長：延長したほうがニーズはあるということか。

担当課：令和2年度からの延長を検討している。

副委員長：利用者向けに調査を行い、利用者のニーズを考えていくとともに、利用時間を延長すると預かる側の問題も出てくると思うので、その辺を考慮して考えていく必要がある。

委員長：学童保育は何年生までか。

担当課：6年生まで。

委員長：もし時間を延長して40人以上来るようになったら、どういう風に対応するのか。

担当課：定員70名で20名につき指導員1名なので、指導員の数は確保できている。

委員長：預かる単位の分割とかは考えているのか。それとも50,60,70人に増えても1つのままか。

担当課：空き教室の利用も考えられるが、現在は70人という人数に対して面積は足りている。

委員長：要するに学童保育には基礎単位があった、50人、60人で1つというわけにいかないなので、人数が増えて、仮に70人になったら35人、35人に分割とか、いろんな対応が要ると思う。そういうことを考えていくと、事業費が現状のままだが、今後いろいろと経費もかかってくるし、運営の仕方についてもいろいろと変わってくるのではと思っている。また検討していただきたい。

担当課：一応部屋は2つあり、足りている状況である。

梶野委員：指導員の確保について、高齢の方にも声をかけてもよいと思う。

担当課：指導員の確保には苦労している。上牧町では現在比較的高齢の方が指導員として長く来てもらっている。現在今の指導員に加えて、新しい指導員の確保に努めている。

(2) 上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定について

【子育てママ就業支援事業】

担当課 : <子育てママ就業支援事業について説明>

安中委員 : 町内の雇用者が少ない。何か呼びかけはしていないのか。

担当課 : 広報で取組みについて紹介したことがある。今年度は人材育成プログラムの実証実験の研修も事業として実施しており、町内のお母さん方に参加していただくことで、町内の雇用者を増やしていきたいという思いを持っている。ママスクエアに関しては町外からも来ていただくことで、上牧町を知ってもらいきっかけとなり、関係人口の創出といったところにつなげていけるというふうを考えてる。

安中委員 : 納得しにくいですが、今後の経緯を見させていただく。

副委員長 : 関係人口の増加ということで納得していたが。

安中委員 : そこはわかる。ただ、他の町から来るぐらいニーズがあるのに、なぜ上牧町の子育てママはあまり関心を持っていないのかという視点で考えてほしいということ。

担当課 : ママスクエアの取組みとか、そういう就業に対しての意欲を高めていたり、就業に対して敷居が高いように捉えられてる可能性もあるので、そういったところも改善していきたいと思っており、イベント等あるごとに保育所や幼稚園での啓発等させてもらったりはしているので、そこも引き続き取り組んでいきたいと考えている。

【UR 住宅の活用協議】、【UR 住宅への入居促進】、【イベント等における町の PR の実施】、【同居・近居相談窓口の設置】、【大規模同窓会等の支援】、【地域のイベントへの招待】

担当課 : <UR 住宅の活用協議、UR 住宅への入居促進、イベント等における町の PR の実施、同居・近居相談窓口の設置、大規模同窓会等の支援、地域イベントへの招待について説明>

牧浦委員 : イベントの PR について、広陵町、田原本町は Facebook をうまく活用している。上牧町でも Facebook 推進について記載してはどうか

担当課 : 参考にさせていただき、他の SNS も含めて活用を検討する。

副委員長 : そうなると指標は発信回数のほうがよいのではないか。色々な形で発信回数を増やすことが大事だと思う。

委員長 : 42 番の施策名が変更で、若年層の回帰の促進、関係人口の創出というのは何番になるのか。

担当課 : 施策名には番号は設定していない。現状で取組み番号 43 が検討中なので、新たな政策を設定するのであれば、42~44 番までが関係人口の創出になると考えている。

副委員長：関係人口の定義はどうするのか。イベントに来たもらった町外の人というイメージも関係人口ということか。

担当課：国の方でも人口減少対策の一環として、関係人口の創出を積極的に進めていくような施策を打っているの、国の考え方ともあわせた展開を想定している。

副委員長：明確に定義したほうが、基準や KPI を設定しやすいと思う。

担当課：KPI の設定の際に検討したいと思う。

西山委員：関係人口が主になると思うが、交流人口のことも記載してはどうか。

委員長：関係人口の創出に係る具体的な事業があったほうがよいのではないかと思う。

担当課：関係人口の創出に直接的にアプローチできるような取組内容を検討したいと思う。

【町内の優れた技術・能力を有する人材発掘】、【人材バンクの情報発信】、【地域活動支援】、【地域活動の情報発信】、【新規 NPO の立ち上げ支援】、【ボランティアの育成・団体立ち上げ支援】、【自治会設立支援】、【上牧町協働のまちづくり公募型補助金事業】

担当課：＜町内の優れた技術・能力を有する人材発掘、人材バンクの情報発信、地域活動支援、地域活動の情報発信、新規 NPO の立ち上げ支援、ボランティアの育成・団体立ち上げ支援、自治会設立支援、上牧町協働のまちづくり公募型補助金事業について説明＞

安中委員：町内の優れた技術・能力を有する人材発掘について、実際に活動されている方の様子を教えてほしい。

担当課：現在はイベントでの協力やまちづくりの計画などの委員として、参画してもらうような形が多い。人材バンクとしては、まきっ子塾の支援スタッフの方に積極的に登録していただいている状況。それ以外でも住民の方が積極的に参加されているイベント等もあると思うので、そういう意欲を持っている方に登録していただき、よりよいまちづくりにつなげていけるような人材バンクにしたいと考えてる。

安中委員：人材バンクを活用しやすいような周知が必要ではないかと思うがどうか。

担当課：広報やホームページで人材バンク登録についての周知はしており、人材バンクの登録は考えていなくても、町からのアプローチがあれば参画したいと思っている方もいると思うので、できるだけそういう方に参画してもらえよう、機運であったり意欲を高めるような取組みもあわせて、情報発信の充実を図っていかれたらと考えている。

安中委員：人材バンクの活用の仕方について、登録している方の確認を取ったうえで、広報などに掲載していくことも考えていただけたらと思う。

担当課：今のご意見も参考にしながら取り組んでいきたいと思う。あとこれまで、人材バンクの共有もあまり図られていなかったの、今年度からは積極的にそうい

った協議も進めているような状況である。

【就職情報の発信】、【就職準備セミナーの開催】

担当課：＜就職情報の発信、就職準備セミナーの開催について説明＞

渡邊委員：若い人だけでなく年配の方についても求人情報の需要があると思うので、若い人に限らず就職情報の紹介等の取組みをしていただきたい。

担当課：そこも認識して取り組んでいきたいと思う。

3. その他

次回以降開催スケジュールの案内

- ・2月6日（木）（終日）
- ・2月26日（水）（午前）

4. 閉会

以上